

■江馬細香 漢詩人、南画家。蘭斎の長女。頼山陽と結婚できず、一生独身。一流の才能を発揮して全国に知られた。

えまさいこう

寛政改革始・1787＝ 美濃国安八郡藤江村(大垣市藤江町)で、大垣藩医江馬蘭斎の長女に生まれる。名は多保・裏、号は湘夢。

初の横綱・・・1789＝ 2歳：妹祐植が誕生したが、直後に母乃宇死去、続いて兄門太郎も夭折。この衝撃からか、漢方医であった父蘭斎が、杉田玄白・前野良沢に蘭学を学ぶべく、

異学の禁・・・1790＝ 3歳：父が藩士山本氏の娘佐野と再婚すると、

混浴禁止・・・1791＝ 4歳：「竹と雀」の画を描く。

ワスマン来日・・・1792＝ 5歳：父が藩主の参勤交代に従って江戸に出てしまい、以後、継母佐野に育てられる。

松平定信引退1793＝ 6歳：大垣郊外赤坂の矢橋家で、荻生徂徠の書「(李白)峨眉山月半輪秋」を臨書。

写楽・・・1795＝ 8歳：この年、帰郷した父が、美濃ではじめての蘭学塾を開く。以後、父から家を継ぐべく、詩画の教育ははじめ厳しく躰られて育ち、父と出かけた会合で、李白の「峨眉山月歌」を臨書して絶賛を浴びる。

ポルトガル来航・1796＝ 9歳：

昌平塾始・・・1797＝10歳：父が前野良沢「和蘭訳箋」に書いた難解な漢文の序文を、父に代わって清書するまでになる。

蝦夷地直轄始1799＝12歳：京都の画僧玉隣に入門して、墨竹画を学び始め、

一九膝栗毛始1802＝15歳：この頃から、自分の墨竹画が藩内に知られるようになり、

従兄温井元親を婿に迎える話が出たが、

けいり来航・1804＝17歳：一生独身で詩画の道に精進したいと申出て、その結婚を妹に譲り、元親は父の婿養子松斎となる。

青洲麻酔手術1805＝18歳：

けいり報復・1806＝19歳：妹夫婦の子・甥元益(幼名益也)が誕生。

つし船狼藉・1807＝20歳：父が隠退。松斎家督を継ぎ、三代春齡として藩医となる。

・・・1810＝23歳：東山永観堂禅林寺の住職玉翁が將軍に拝礼のため江戸へ下向の途次、江馬家を訪問、父に乞われた僧玉隣から、絵についてはこれ以上教えることは無く、以後、経史・漢文の学習をと言われる。

ゴロブツ拿捕 1811＝24歳：この年、頼山陽上洛し、私塾を開く。妹夫婦と京坂遊覧の旅に出、大坂、堺まで行く。

高田屋拿捕・1812＝25歳：甥元齡(幼名千次郎)が誕生。

浮世床・・・1813＝26歳：*美濃遊歴中の頼山陽が江馬家を訪問して初対面、入門し、細香の号。結婚も申し込まれ、父に拒絶されたと伝えられるが定かではない。家庭においては父母に孝養を尽し、2人甥のよき導き手となる。

黒住教・・・1814＝27歳：上洛し、山陽から詩の指導を受け、花見や舟遊。上洛中に大倉袖蘭と知合い、終生の友となる。以後、度々上洛し、山陽とその周りの人々と交流。国学者小山田与清著「松屋叢話」に、細香に関する記事が載る。

伊能測量終・1816＝29歳：父の七〇歳の賀を祝い、寿詩を作る。

杉田玄白没・1817＝30歳：上洛し、山陽・登々庵らとの詩会に出席。登々庵が大垣に来遊し、細香を訪問。

水野忠成老中1818＝31歳：病臥中の母佐野を看病。江戸の詩人大窪詩佛より詩を贈られる。

群書類従完結1819＝32歳：山陽の紹介と指導で、清人江芸閣との詩の贈答始まる。この頃から、浦上春琴について画法を学び始める。

・・・1820＝33歳：三代春齡松斎が死去、元益が家督を相続し、四代春齡となる。この頃から、*美濃の山陽門下生中心に梁川星巖・紅蘭夫妻、村瀬藤城ら錚々たるメンバーと{白鷗社}を結成、毎月詩会を開いて詩文を論じ合う。

蝦夷地直轄終1821＝34歳：名古屋に滞在中の大窪詩佛を訪問。席上、画を描き、詩を贈られる。この年、中国の史書を読む。

英船浦賀来航1822＝35歳：西遊する星巖・紅蘭夫妻を見送る。この頃から詩を齎められることが多くなる。

シボト来日・1823＝36歳：

シボト山鳴滝塾1824＝37歳：この年、菊池五山著「五山堂詩話」に細香の記事が載る。

異国船打払令1825＝38歳：前野良沢の伝記「蘭化先生伝」を作る。

・・・1826＝39歳：父の八〇歳を賀し、著書「論語訓詁解」刊行。星巖・紅蘭夫妻帰藩。上有知村に藤城を訪問。

日本外史・・・1827＝40歳：上洛、遊覧し諸家と交流。

シボト事件・1828＝41歳：

シボト追放・1829＝42歳：式年遷宮参拝のため伊勢へ行く。「源氏物語」を読み、「源語詩」を幾つも作るほか、詩作多し。

富籤流行・・・1830＝43歳：高野長英が江馬家を訪問。母佐野が病臥し看病。山陽から詩集出版を薦める手紙くるが辞退。

富籤三十六景1831＝44歳：母佐野が死去。父蘭斎も健康すぐれず、看病つづく。

鼠小僧磔・・・1832＝45歳：頼山陽が死去、以後、その門人後藤松陰の指導を受け、山陽の遺族とも終生親しく交流。

天保大飢饉始1833＝46歳：父の健康回復し、越前敦賀まで往診に出かけるのにお供。上洛して頼家を弔問。

高島砲術・・・1834＝47歳：父八八歳の賀宴に寿詩を作る。

・・・1836＝49歳：父が病臥し、看病続く。

大塩平八郎乱1837＝50歳：この年、大垣地方は大暴風に襲われ、飢饉と疫病で死者多数。元益・元齡は医師として大活躍。

適塾オープン・1838＝51歳：山陽未亡人頼梨影より父に見舞いの品来るも、父が死去。笑詩を作る。

蚕社の獄・1839＝52歳：名古屋へ赴く途中、七里の渡しで大風浪に遭う。松崎謙堂「鎌堂日歴」に細香の記事が載る。

勸進帳初演・1840＝53歳：浦上春琴が死去。伊勢神宮参拝に赴く。山陽の「日本外史」を読む。

天保改革始・1841＝54歳：上洛。

順天堂始・・・1843＝56歳：彦根に赴く。眼を患う。二人の甥の、医師としての活躍を喜ぶ。頼梅麗没。

阿部正弘首座1845＝58歳：眼病なお全治せず。帰郷した星巖と藤城が来訪。病中の紅蘭に見舞し、答礼の贈詩。

孝明天皇・・・1846＝59歳：上洛。紅蘭と詩の応酬。大垣藩老小原鉄心ほかの若い詩人たちと{黎邨社}を結成。

・・・1848＝61歳：*大垣藩の若い詩人たちと詩社{咬菜社}を結成し、社長に推される。

北斎没・・・1849＝62歳：_最後のの上洛。頼山陽の子三樹三郎らと嵐山に遊び、東山で詩会。

国定忠治磔・1850＝63歳：社会への関心を持ち続け、大垣に遊廓が作られようとした時、その非を説いて中止させ、藩老小原鉄心に政治上の助言をするほどの見識があった。晩年は動脈硬化による耳鳴りや目まいになやみ、

ペリー来航・1853＝66歳：

開国開港・・・1854＝67歳：大垣地震、続いて大地震。9月に梅が咲き、12月に筍が出る異常気象。

安政大地震・1855＝68歳：病臥後、花見酒に酔って転び怪我。頼梨影が死去。この頃二度、書齋に盗賊が入る。

松下村塾・・・1856＝69歳：*藩主夫人・世子に墨竹画を献上し、菱牡丹の紋服を賜るが、吐血して病臥。

五ヶ国条約・1858＝71歳：藩主分家に命ぜられ、墨竹画を描く。幕吏に追われる頼三樹三郎を匿う。星巖がコレラで死去後、三樹三郎、次いで紅蘭も捕えられる(安政の大獄)。

安政の大獄・1859＝72歳：紅蘭は釈放されるが三樹三郎は処刑。

桜田門外変・1860＝73歳：一人で駕籠に乗り、大垣近郊の桜を見て回る。藩主から九曜の紋服を賜る。五言絶句「偶作」を絶筆に、

遣欧使節・・・1861＝74歳：甥元益が隠退し、その嫡男信成、家督を継ぎ、五代春齡として藩医となる。脳出血のため没した。詩集「湘夢遺稿」は没後10年に刊行された。